

諸本について

数葉の鎌倉期古筆切を除くと、中世極末期を遡る善本はなく、現存の諸本間に大きな異同はない。大きく版本系と写本系に二分する。

版本系とは寛文九年刊本、および、それを底本とし、写本四本で校合した山本明清『古今和歌六帖標注』、『旧国歌大観』、『校註国歌大系』（第九巻）など。

また、写本については、十二本の書誌が図書寮叢刊『古今和歌六帖 下巻』（養徳社 一九六九年①とする）にあり、現存最古の写本が永青文庫叢刊『古今和歌六帖』（解題 荒木尚、汲古書院 一九八三年②とする）に影印本として刊行された。

本書は、永青文庫本を底本とし、桂宮本、御所本、大久保本（榊原家旧蔵）の三本によって校合した。それらの書誌を簡単に記す。

一、永青文庫本（②の底本）

縦二五・七センチ、横二〇・三センチの袋綴、六冊。縹色楮紙の表紙。左肩に朱地に金泥で竜紋を画いた題簽があり、「古今和歌六帖 第一」と記して貼付する。墨付一一〇丁。遊紙、前後各一丁。奥書がある（一帖の他、三・四・六の各帖にも奥書がある）。

この本は、文禄四（一五九五）年、細川幽齋が富小路秀直（一五六四—一六二一）をもって借り出した世尊寺行能筆の禁裏本を忠実に書写したものだ。ただし、第三帖幽齋筆のほか、四五人の寄合書という（②による）。

一、御所本

縦二八・〇センチ、横二〇・五センチの袋綴、六冊。黄蘗染の鳥の子紙の表紙。題簽は藍色内曇り、鳥の子紙の小短冊。一面十行、歌二行書。奥書は次の桂宮本と同様、一帖のほか、三・四帖にある（①による）。

一、桂宮本

縦二六・六センチ、横二〇・六センチの袋綴、六冊。鼠茶地の鳥の子紙の表紙。題簽は後補。一面十二行、歌一行書。奥書は一帖のほか、三・四帖にある（①による。①の底本）。

一、大久保本（榊原家旧蔵）

縦二八・〇センチ、横二〇・六センチの袋綴、六冊。灰色がかった紺色の表紙。左肩に白地の題
籤があり「古今六帖第一」と記して貼付する。一面十行、歌一行書。印記「楽山亭文庫」「吏部大
卿 忠次」「文庫」。奥書は桂宮本と同様、一帖のほか、三・四帖にあり、さらに別の奥書が一・二・
五帖にもある（①による）。榊原家旧蔵。ついで大久保正氏蔵。現在は福留温子氏蔵。